

2020年度後期（第10回）12月実施 キャリアコンサルティング技能検定

1級 実技（論述）試験

実施日 ◆ 2020年12月13日（日）

試験時間 ◆ 14:30～16:30（120分）

★注意事項★

1. 本試験の出題は、必須問題（全員解答）と選択問題（分野別事例から一つ選択）です。事例を読み、必須・選択問題のそれぞれ指定された解答用紙の設問ごとに記述してください。選択問題は、解答用紙の「選択する分野」の○欄を塗りつぶしてください。記入漏れがあった場合は採点されません。
2. 解答用紙の受検番号・氏名に誤りがないか、確認してください。
3. 試験中は、受検票、腕時計（腕時計型ウェアラブル端末の使用は不可、音を発しないもの）、筆記具（黒の鉛筆またはシャープペンシル、色ペン、消しゴム）以外のもの（定規、メモ用紙、筆記用具入れ等）は机の上に置かず、カバンの中などにしまってください。
4. 受検票は、机上の通路側に見えるように置いてください。
5. 試験室内では、携帯電話・スマートフォンなどすべての通信機器および電子機器、時計のアラーム等、音の出る機器は使用禁止です。必ず電源を切り、カバンの中などにしまってください。
6. 試験中は、乱丁・落丁・印刷不鮮明に関する質問以外はお受けできません。
7. 不正行為があったときは、すべての解答が無効となります。
8. 試験終了の合図が告げられたら、直ちに筆記具を置き、試験監督者の指示に従ってください。
9. その他、試験監督者の指示に従ってください。従わない場合は、失格となります。

【退出時の注意事項】

1. 試験開始後 30 分経過した時点で途中退出できます。途中退出する場合には、挙手し、試験監督者の指示に従ってください。問題用紙はお持ち帰りください。
2. 試験終了時刻 5 分前からは退出できません。試験終了後、試験監督者が解答用紙を回収しますので、着席したまま静粛にお待ちください。

- 実技試験の合格は、論述試験および面接試験の両方とも合格基準に達することが必要です。
- 2021年3月24日（水）（予定）に、受検者全員に合否通知書を送付いたします。合格者は当協議会のウェブサイト（<https://www.career-kentei.org/result/>）に掲載してお知らせします。

厚生労働大臣指定試験機関

特定非営利活動法人キャリアコンサルティング協議会

〒105-0011 東京都港区芝公園1丁目6番8号 泉芝公園ビル5階 TEL03-5402-4688

☆☆ 解答に際しての注意事項 ☆☆

1級実技(論述)試験の問題は、**必須問題**と**選択問題**です。

選択問題は、**企業分野**、**需給調整機関分野**、**教育機関分野**の3分野の事例から1つ選び、**解答用紙の「選択する分野」の○欄を塗りつぶしてください**(記入漏れがあった場合は採点されません)。

必須問題、選択問題のそれぞれ指定された解答用紙の設問ごとに解答を記述してください。なお、事例は、事例相談者(キャリアコンサルタント)が相談者に対してキャリアコンサルティングを行った結果をもとに、事例相談者が事例指導を受けるためにまとめたものです。

事例1【必須問題】

事例相談者：女性(40歳)

相談者：A(男性：53歳)

事例2【選択問題：企業分野】

事例相談者：男性(35歳)

相談者：B(女性：40歳)

事例3【選択問題：需給調整機関分野】

事例相談者：女性(55歳)

相談者：C(男性：29歳)

事例4【選択問題：教育機関分野】

事例相談者：男性(35歳)

相談者：D(男性：21歳)

この事例に登場する人物、団体は、本技能検定用に作成したもので、実在のものとは何ら関係ありません。

解答に際して、裏面および枠外に記述されたものは採点されません。なお解答用紙の裏面をメモ書き用として使用することは可能です。

◇試験問題で使用される用語について

事例相談者とは、キャリアコンサルタントのことを指し、自分が実施したキャリアコンサルティング(事例)に関して、面談過程、事例の見立てや対応方針、環境への働きかけ等について相談をする人のことです。

相談者とは、自らの進路相談、職業相談、人事労務に関する相談など、キャリアに関する相談に来た人のことで、事例に登場する人を指します。クライアント、クライアントと同意語として使用しています。

事例 1：【必須問題（全員解答）】

次の文章は、事例相談者（キャリアコンサルタント：女性 40 歳、相談歴 2 年）が事例相談を受けるためにまとめた事例である。この事例を読み、以下の問いに答えなさい。解答は指定された解答用紙「必須問題（全員解答）」に記述すること。

相談者：A（男性：53 歳）、都内のオフィス事務機器・情報機器販売会社の営業課長

家族：妻（51 歳、専業主婦）、長男（20 歳、大学 2 年生）、二男（16 歳、高校 2 年生）、
実家は、両親の二人住まい

【来談経緯】

Aさんは大学進学を機に上京し、新卒で今の会社に就職して31年になる。現在は営業課長として4名の部下がいる。最近、母親から、そろそろ父親の介護が必要になってきて、私一人では大変なので実家に帰ってきてくれないか、という連絡があった。以前から両親のことは気がかりだったので戻ってやりたいと思うものの、他にも気になることがあり、相談に来た。

【面談経過】（ ）内はキャリアコンサルタントの発言、「 」内は相談者の発言

Aさんは現在の会社に入社して31年になるが、仕事も順調で人間関係も問題なくここまでやってきた。そのような中、実家の母親から連絡があり、最近お父さんの足腰がめっきり弱くなってきて、私一人では面倒を見るのが大変になってきた。それにお父さんが車を運転できないと買物にも行けないし、この先心配なのでこちらに戻ってきてくれないか、とのことだった。かねてから両親のことは気にかかっていたし、この機会に実家に戻りたいと思うが、気になることもあって相談にきた。

「母が戻ってきてほしいとはっきり言うなんてよほど心細い思いをしているのだと思います。電話をもらって、すぐにでも戻ってやりたいと思うくらいなのですが、仕事のこととかいろいろ気になることがあります…。ちょっとご相談してみようと思って参りました」

（そうですね、それは大変ですね。気になっているのは、お仕事のことでですか）

「はい、今の仕事と向こうでの仕事の両方です。実家に戻るのであれば今の会社は辞めなければなりません。上司に相談してみたのですが、『気持ちはわかるが、急に後任の用意はできないし、そんなに焦らずにもう少しゆっくり考えてはどうか。とりあえず少し休みを取って実家に帰ってきたら』と言われていました。それと、向こうで新しい仕事を探すとなると、今は全く手掛かりがありません。でも、法人営業として30年の経験がありますし、何とかなると思っています」

（収入については、どうですか）

「給料はそれなりにダウンすると思いますが、田舎は生活費が安くすみますから」

（そうですね。ちなみに、現在の会社でご実家から通勤できる地域に異動させてもらえる可能性はないのでしょうか）

「それができればいいのですが、実家の近辺には営業所もないんですよ」

(そうですか。そうすると、実家でご両親のサポートをしながら勤務できるところへ転職されるしかないということですね。他にも気になることがあるとのことですが…)

「はい。今回の件を家族に話したのですが、妻も子どもたちも自分たちが一緒に行くことには反対しています。二男はまだ高校生なので、引越しをして友達と別れるのは嫌だし、学校が変わるのは進学にも悪影響だと言っています。妻は『お義父さんお義母さんのことは気になるけど、子どもたちのことを考えると引越しは考えられない』と言うんです」

(なるほど。ご自身としては、ご両親のことが心配ですぐにでも帰りたいと思っておられるのに、上司はもう少し考えて欲しいと言うし、奥様や息子さん達は引越ししたくないとおっしゃっているのですね)

「そうなんです。私には兄弟もいませんし、何とか早く戻ってやりたいのですが…、会社も家族もなかなかわかってくれません」

(そうですね。なんとしても早くご両親の元に行きたいというAさんのお気持ちをお察ししますよ。今のお仕事については上司の方がなんとと言われてもAさんには職業選択の自由があります。ご家族に関しては、Aさんが単身で戻られることも一つの選択肢だと思いますので、とりあえずは向こうでの仕事を探すことから始めてみてはいかがでしょうか。上司やご家族を説得するにもいろいろ情報を集めてからの方がいいかもしれませんよ)

「そうですね。私が考えていたこととほぼ同じで安心しました。そういう方向で進めてみようと思います。ありがとうございます。来週、改めてご報告します」

【所感】

まずはAさんの気持ちを受け止め信頼関係を築くことにした。その上で訴えたことをしっかり捉え、わからないところは問いかけることでAさんの問題点が明確になった。心情に沿ってご提案したことにより、Aさんの安心感を得たと感じている。

共感を得られたものの、今後の方向性についてどうアドバイスしていけばいいのか、また、自分（キャリアコンサルタント）には地元での仕事の探し方についてもノウハウが無いので、このあとどうやって支援していけばいいのか、指導を受けたい。

問1 この相談者Aについて、どのような問題があるか、あなたの考えをその根拠を含めて記述せよ。(15点)

問2 この事例相談者の相談者Aへの対応について、どのような問題があるか、あなたの考えを記述せよ。(15点)

問3 あなたが、この事例相談者の立場なら相談者Aに対してどのように対応するか、あなたの考えを記述せよ。(20点)

事例 2：【選択問題（企業分野）】

次の文章は、事例相談者（キャリアコンサルタント：男性 35 歳、相談歴 2 年）が事例指導を受けるためにまとめた事例である。この事例を読み、以下の問いに答えなさい。解答は指定された解答用紙「選択問題」に記述すること。なお選択する分野は、「企業分野」の○欄を塗りつぶすこと（記入漏れがあった場合、採点されません）。

相談者：B（女性：40 歳）、大学卒業後、3 年間旅行会社に勤務。その後、現在の司法書士事務所
所に転職
家族：夫（42 歳）

【来談経緯】

Bさんは、司法書士事務所に事務職として転職して、15 年になる。入職時は、規模も小さく風通しのよい職場だった。しかし、こここのところ職場の居心地が悪くなり、やる気がなくなっている。事務所が契約しているキャリアコンサルタントに相談に来た。

【面談経過】（ ）内はキャリアコンサルタントの発言、「 」内は相談者の発言

Bさんが現在の司法書士事務所に入職した当時は、従業員 10 名のアットホームな職場だった。所長は温厚で職員への気遣いもあり、信頼をおいていた。

Bさんの業務は、所長の指示に従い書類を作成したりクライアントに対応することが主で、指導を受けながら仕事の幅も少しずつ広がり、自分なりに充実していた。

5 年前、高齢のため所長が引退し、息子が新所長に就任した。それからクライアントも増え、専門分野の司法書士も採用、それに伴い事務職も増員され、今では 40 名ほどになっている。

1 年前に人事制度と組織の見直しがあり、Bさんは事務職チームの所属となったが、最近職場の居心地が悪く感じられ、やる気がなくなっている。

（職場の居心地が悪くなり、やる気がなくなっていると感じているのですね）

「はい、所長が代わる前まではアットホームな感じで仕事できていましたが、今は事務職だけのチームで仕事をしているので、以前のように所長はもちろん周りに相談しながらという感じではありません。それに…、半年前に事務職チームに新しく課長が採用され、私より年下の女性なんですけど、さも自信ありげで、作業のやり方についても以前勤めていた事務所でやっていた方法押し付けてくるんです。そのやり方が今までとはかなり違うんですよ」

（新しい課長のやり方に戸惑っておられるのですね）

「そうなんです。同僚たちも課長のやり方には不満を持っていて、時々、『Bさんが、一番長く勤めているんだから、課長に言ってやってくださいよ』と言ってきます。何度か課長に『今までは、こういうやり方ですが…』と進言しても、自分のやり方を押し通してきます。納得できるものもありますけど、そうでないことも多くて手間取っていると、『言われたようにさっさとやって!』ときつク言われるし…、やり方が強引で振り回されている感じなんです」

(やり方が強引で、振り回されていると感じているのですね)

「課長は、確かにリーダーシップもあって、仕事もできると思いますけど…。タバコを吸うので、席を空ける時間が多いんです。それにお気に入りの部下には、しょっちゅう声を掛けてランチに行ったり飲みを誘ったり、というタイプなんです。私は家庭もありますし、仕事は時間内にしっかりやって早く帰宅したいという考えなので、付き合いが悪いと思われていることも態度から伝わってくるんですよ。それに気が合う人とは仕事でも楽しそうにおしゃべりしているけど、短時間勤務の人や私のような者に対しては、明らかに接する態度が違うので、チームワークも悪くなっていると思うんですよ」

(以前に比べて、職場の雰囲気も違ってきているということでしょうか)

「はい、そう思います。それに、課長との面談の時にも『あなたはベテランなんだから、もっとできるはずでしょう』と厳しく言われて…。最近では、私に振られる仕事も増えてきて、残業しないと終わらないくらいなんです。他の人より雑用も多いと思うし、なんだか私だけきつく当たられている感じで、だんだん、やる気もなくなってきました」

(Bさんだけ雑用も多くなっていて、やる気もなくなってきた…)

「本当ならチームで協力して進めなければならないのに、それも十分にできないし、課長に相談しようと思っても、席に居ないことが多いので、相談もできない。メールで相談しても見ていないのか、ほとんど返信がないんです」

(やることが多くなって、負担が大きくなっているのですね。仕事が増えた分、どのようにすれば効率的にこなせるか、方法を一緒に考えてみませんか)

「お客様も増えているから仕事も増えているというのはわかるんですけど…。私は経験が長いというだけでやらされることが多いんだと思うんですよ。効率的にこなすと言っても、今でも精一杯という感じなので、すぐには考えつきません」

【所感】

初回面談の際、Bさんには作業を効率的に行うため、業務の整理を行うことを提案した。その後2回ほど面談をしたが、課長に対する不満の話に終始して、業務の効率化について本人が自主的に考えることは無く、こちらから提案をしても実行に移す様子はいかたがえな。Bさんが仕事へのやる気を取り戻すためにはどのように面談を進めればよいのか、指導を受けたい。

- 問1 この事例相談者が抱えている問題は何か、あなたの考えを記述せよ。(10点)
- 問2 この事例相談者が抱えている問題に対して優先して取り組むべき目標は何か。また、その目標を達成するために、効果的な支援を行う方法や内容について具体的に記述せよ。(20点)
- 問3 この事例相談者が相談者を支援するために必要なネットワークや環境への働きかけは何か。また、なぜそれが必要であるか根拠を記述せよ。(20点)

事例 3：【選択問題（需給調整機関分野）】

次の文章は、事例相談者（キャリアコンサルタント：女性 55 歳、相談歴 2 年）が事例相談を受けるためにまとめた事例である。この事例を読み、以下の問いに答えなさい。解答は指定された解答用紙「選択問題」に記述すること。なお選択する分野は、「需給調整機関分野」の○欄を塗りつぶすこと（記入漏れがあった場合、採点されません）。

相談者：C（男性：29 歳）、私立四年制大学商学部卒業。現在は請負会社の契約社員。物流会社にて梱包や検品作業等に従事

家族：父（58 歳、公務員）、母（55 歳、専業主婦）、妹（25 歳、公務員）と同居

【来談経緯】

Cさんは、大学の就職活動では経理関連の職種を希望していたが、上手くいかず内定を獲得できなかった。卒業後、両親から地元に戻ってくるように言われ、父が勧める会社に行くか応募をしたが採用には至らなかった。その後、請負会社に契約社員として入り、勤務先は何回か替わったが、ほぼ同じような業務に従事し、今も続けている。自分では、今の仕事は単調だがどこか気楽なところもあり、嫌だとは思わない。しかし、両親から「正社員で安定した仕事に就け」と毎日言われており、父に一方向的に押しつけられるまま、とりあえず相談に来た。

【面談経過】（ ）内はキャリアコンサルタントの発言、「 」内は相談者の発言

特にやりたいことも無く、父の勧めで商学部を受験したが、志望大学には受からなかった。在学中は授業には興味が持てず、バンド仲間と演奏活動に熱中した学生生活だった。そのまま東京で就職したかったが叶わず、父から帰郷するように言われ、地元に戻って生活している。

「地元はそれなりに居心地が良いし、自分の時間もあるからギターは今でも続けている。母は結婚しろと言うがその気はない。今の状態にはそれなりに満足している。ただ、最近は物流もICT化が進み、人手に頼らなくなってきていると感じる。この先いつまで今の仕事を続けていけるか心配だし、突然切られるのは困る」と今の心情が語られた。

（仕事を切られるのではと不安を感じておられる。ご両親の期待もあり、正社員として就職したいと思っているんですね。以前のご希望と同じく、経理の仕事をお探しですか）

「商学部卒ですが、あまり勉強してこなかったもので、資格もないし、自信はありません。正社員に応募した時も、ほとんど書類選考で落ちたし、面接に行ってもダメでした。親に言われるから、たまにネットで求人情報は見ていますが、興味はわきません。いろいろ面倒だし、どうせダメだという気がして、真剣に取り組めないんです…」

（経理のお仕事は、資格も自信もないし採用されないとされていて、なかなか前向きになれないのですね。今は、Cさんの今後の職業生活を方向付ける、大切な時期に当たると思いますよ。自分がどんな仕事に向いているか、Cさんのこれからのキャリアを考える上で参考になるので、職業興味検査や適性検査などを受けてはどうでしょうか。ご自身の人生においてキャリアプランを描くことは大事なことですよ。一緒にやってみませんか）

「検査は在学中も何回か受けたけど、あまりピンとこなかったなあ。コツコツやる傾向が出ていたと思うけど…。やっぱり、今、本当に方向を決めないといけないのですか」

キャリアコンサルタントは、20代の終わりごろから30代は、生活の自立や結婚して家族が増えるなど家庭環境も変わり、また、仕事の面でも自分の決めた職業の方向性を見据えてキャリアアップしていく段階で、大切な時期である点を説明した。合わせて、事務系の職種や業種についても情報提供を行った。Cさんからは明確な反応は得られなかったが、もう一度自分でも考えてみるので後日また来ていいですかと尋ねられ、2週間後に2回目の面談を行った。

Cさんから、仕事は前と変わっていないが、商店街にバンドを組んでいる人達がいると聞いて参加し、気が合いそうだし楽しかったので続けてみたい、ということが話された。

(そうですか、それはよかったですね。ところで、この前お話ししたとおり、今後のご自分のキャリアについて、何か考えましたか)

「1週間や1か月位なら嫌な仕事でもやれるけど、好きな仕事でなかったら長く続けるのは無理だと思うんです。それに、この辺りだと名の知れた会社の募集は少ないし、正社員は難しいと思う。どうしたら良いか、まだ迷っています」

(そう考えたのなら、経理の勉強をして資格を取るとか、職種を広げるなどを考えてはどうですか。あなたの真面目な性格はきっと採用担当者にも受け入れられますよ。それに、慣れない仕事に就くわけですから、会社の規模もそんなに大きくない方がいいかもしれませんね)

「そうですね…。でも、学校に通う時間は取れないし、名も知れない中小企業に勤めて両親をがっかりさせたくないし。どう進めたら良いか…」

その後、対象とする職種について具体的に話し合った上で、中小企業も含めて求人募集をネット等でチェックするよう改めてCさんに伝えた。また、キャリアコンサルタントも関連情報を調べ、次回に伝えることを約束し、面談を終了した。

【所感】

Cさんは、両親に振り回されている感じはあるが、真面目で良い若者だと思う。しかし、好きなことには相応の努力をするが、そうでないことには面倒がり自分から進んで取り組むことができない。このままでは、Cさん自身が困るだろうし、両親の心配も理解できる。面談でのCさんの様子から、少しずつ再就職に向けて気持ちが前向きに進展していると感じられるものの、今後のキャリアに真剣に向き合ってもらうためにはどうしたらいいのだろうか。最近の若者の気持ちを理解しきれず、悩んでいる。

問1 この事例相談者が抱えている問題は何か、あなたの考えを記述せよ。(10点)

問2 この事例相談者が抱えている問題に対して優先して取り組むべき目標は何か。また、その目標を達成するために、効果的な支援を行う方法や内容について具体的に記述せよ。(20点)

問3 この事例相談者が相談者を支援するために必要なネットワークや環境への働きかけは何か。また、なぜそれが必要であるか根拠を記述せよ。(20点)

事例 4 : 【選択問題（教育機関分野）】

次の文章は、事例相談者（キャリアコンサルタント：男性 35 歳、相談歴 2 年）が事例相談を受けるためにまとめた事例である。この事例を読み、以下の問いに答えなさい。解答は指定された解答用紙「選択問題」に記述すること。なお選択する分野は、「教育機関分野」の○欄を塗りつぶすこと（記入漏れがあった場合、採点されません）。

相談者：D（男性：21 歳）、私立大学機械工学科 4 年生

家族：父（55 歳）、母（50 歳）、妹（19 歳、大学 1 年生）と同居

【来談経緯】

Dさんは、以前から車やバイクが好きで、将来は自動車メーカーで設計開発の仕事がしたいと思っていた。就職活動を始めたのは遅かったが、選考 1 社目で内定を得た。自分では良い会社だと納得して承諾したのだが、その後、親からの意見もあり、インターネットなどでもいろいろ調べていくうちに、別の企業に就職した方が良いのではと思い始めた。このまま内定先の企業に就職するか、再度就職活動をした方が良いか相談したいと大学内のキャリアセンターを訪れた。

【面談経過】（ ）内はキャリアコンサルタントの発言、「 」内は相談者の発言

9 月も終わる頃、初めてキャリアセンターに来所したDさんは、少し緊張した様子で「自動車系のエンジニアの募集ってまだありますか」と尋ねてきた。（まだ募集は来ていますよ）と緊張がほぐれるよう笑顔で返答すると、「まだ大丈夫なんですね。少し相談に乗っていただいてもよろしいですか」と安心した様子で話し始めた。Dさんは、緊張しながらもハキハキした口調で声も大きく、しっかりした学生という印象であった。

「実は、内定を 1 社取っていますが、技術派遣の会社の正社員で、クライアント先で勤務する形態になります。自分は車やバイクが好きで自動車メーカーで設計開発の仕事に携わりたいと思っていました。その会社は自動車メーカーの取引先が多くありますし、未経験でも研修制度があって、設計開発の仕事にも就けるみたいなんです」

（そうですね、それはよかったですね）

「そうですね…。学生時代にしか満喫できないと思ってバイク仲間とツーリングで遠出したりしていたので、選考を受けたのは 8 月になってからでした。でも運良く 1 社目で内定をいただきました。1 社だけの選考で決めて良いか不安もありましたが、人事担当の方からも、自分のことを礼儀正しくて元気があるとところが良かったと褒めてもらえましてし、オフィスも立派で、人事の人の雰囲気も良かったので、そこで設計開発職としてスキルを磨いていこうと決めて内定を承諾しました」

（内定を承諾したけど、迷っている…）

「はい。親は、勘違いをしているのか、派遣は安定していないし、やめた方が良くと反対しています。技術派遣の会社なので安定しているし昇給もある、有休やボーナスもあると説明しても

取り合ってくれません。親が心配するので、それ以外の企業も調べました。自動車メーカーの設計開発だと、院卒の方が有利みたいなのですが、研究は自分に合っていないような気がするし、親に負担を掛けたくないの今のところ進学は考えていません」

(確かに自動車メーカーの設計開発だと院卒の方が有利ですね。でも学卒でも設計開発に携わることが出来るのならいいんじゃないですか)

「でも、ネットの情報だと、技術派遣は希望どおりの職種に携われなかったり、派遣先が数年で変更になったりすることが多いと書いてあって。それなら一般企業で、車の部品とかエンジンの製造をするような会社の方がいいかなとか…。部品とかエンジンを作るような仕事ならやってもいいと思えるので、再度就活をした方がいいのかなと考えるようになりました。将来、結婚したとして、勤務場所が変わることで子どもが転校したり、単身赴任とかの可能性のある技術派遣より、安定して同じ場所ですずっと働ける企業に就職した方がいいかなとも思っているんです」

(そうですか。では車の部品メーカーなども視野に入れているということですね。求人はまだあるので大丈夫ですよ)とDさんの不安が軽減するよう、現在のキャリアセンターの状況を説明した。

しかしDさんは、「内定先の人事の方から『一般のメーカーだとエンジニアとしてずっと勤務出来る保証はなく、営業等に異動の可能性もある』と聞いたので、迷いもあるんです」と、なかなか決心がつかないようだった。

相談時期も遅かったため(そんなことまで考えていたら、どこにも就職出来ないと思いますよ。就活をするならピークは過ぎているので早い方が良いですね)と助言した。さらに(今もセンターには何社か募集要項が来ているので、気に入った企業を2、3社ピックアップして、エントリーシートを書いて一度見せてください。その後ロールプレイ等を行って面接対策をしていきましょう)と今後の具体的な行動を提示し、次回の面談予約を設定して初回を終えた。しかし、次回の面談日時になってもDさんは来所せず、それ以降1か月ほど経った今でも、Dさんからの連絡は無い。

【所感】

希望の職種も決まっており、しっかりした印象であったが、やはり内定が決まっていると就職活動のモチベーションが持続できず、別の会社を探すのはあきらめたのかと気になっている。仮に営業職となってもDさんなら十分やっていけると思ったし、何よりもDさんの希望に添うように面談をしたつもりだった。しかし、時期的にも早く具体的な行動に移した方が良いと考え、最後は少し指示的となってしまったのではと反省している。

問1 この事例相談者が抱えている問題は何か、あなたの考えを記述せよ。(10点)

問2 この事例相談者が抱えている問題に対して優先して取り組むべき目標は何か。また、その目標を達成するために、効果的な支援を行う方法や内容について具体的に記述せよ。(20点)

問3 この事例相談者が相談者を支援するために必要なネットワークや環境への働きかけは何か。また、なぜそれが必要であるか根拠を記述せよ。(20点)

